



TITLE:

京大広報 No. 334

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 334. 京大広報 1987, 334: 315-318

ISSUE DATE:

1987-06-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209346>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 334

京都大学広報委員会



霊長類研究所附属ニホンザル野外観察施設屋久島観察ステーション ー関連記事本文316ページー

目 次

西島総長、アメリカ合衆国 ポリテクニク大学等訪問.....	316	日 誌.....	317
霊長類研究所附属ニホンザル野外観察施設 屋久島観察ステーションが完成.....	316	＜随想＞ 機械工学教室の思い出 名誉教授 山田 敏郎.....	318

＜大学の動き＞

西島総長、アメリカ合衆国
ポリテクニク大学等訪問

西島安則総長は、5月29日からアメリカ合衆国における高等教育・研究機関の調査並びに学術国際交流に関する意見交換のため同国を訪れ、6月5日帰国した。

今回の主な訪問先は、ポリテクニク大学 (Polytechnic University)、大学協議会 (The College Board)、コロンビア大学 (Columbia

University) であり、各訪問先において高等教育・研究機関の実状とその将来構想、大学の入試制度等について調査をすると共に、学術国際交流の意義とあり方に関して意見交換を行った。

なお、6月1日にニューヨークのリンカーン・センター (Lincoln Center) でポリテクニク大学の学位授与式が行われ、同大学の名譽学位 (Doctor of Science) が西島総長に贈られた。

今回の訪問には大内 剛入試課長が同行した。

＜部局の動き＞

霊長類研究所附属ニホンザル野外
観察施設屋久島観察ステーション
が完成

去る昭和62年3月、霊長類研究所附属ニホンザル野外観察施設屋久島観察ステーションが、鹿児島県熊毛郡上屋久町永田に完成した。

このステーションは、共同利用機関としての本研究所が、屋久島のニホンザルの調査、研究を推進するために、かねてより建設を計画していたも

のである。

屋久島は、海拔1,935mの宮之浦岳をはじめとする多くの山々を擁し、豊かな森林に恵まれている。サルは下部域の照葉樹林帯に高密度に分布しているが、厳冬期の雪の降りしきる季節に、上部域でもサルの声が聞かれ、足跡が発見されたという研究者の報告もある。屋久島のサルが個体間関係や群間関係をどう維持しながら、自然をどう利用し、あるいは自然にどう適応して生活しているのか、その諸側面を明らかにすることは興味深い課題である。

ちなみに日本に生息するサルはニホンザル (学名: *Macaca fuscata*) 一種のみで、本州、四国、九州に広く分布している。そして、積雪地の青森県下北半島にすむサルが北限のニホンザルとして有名なのに対して、亜熱帯多雨気候下の鹿児島県屋久島にすむサルは、南限のニホンザルとして注目されてきた。屋久島のニホンザルは、ニホンザルとしては多少小型で、やや黒っぽい毛色をしている (特に新生児で) など、他の地域のニホンザルと異なる特徴をもち、そのために亜種 (*Macaca fuscata yakui*) とみなされ、よくヤクニホンザルあるいはヤクシマザル、



ムルソー群のリーダー「マルス」の雄姿

略してヤクザルの名で呼ばれている。

今回建設された屋久島観察ステーションは、それらサルを調査・研究するための基地として活用されることになる。観察ステーションは島の西北海岸部に位置し、風雨にさらされることが多いことや、シロアリによる被害などの諸条件を考慮して、床の高い鉄筋構造建築となっている。床面積112㎡(34坪)の平屋造り小建築で、内部はダイニングキッチンを中心に、研究・実習室、作業室、標本室などがそれを取り巻く間取りとなっている。調査資料の整理・分析・検討、現地調査に関連する図書・地図・機器・装備・標本等の保管などにはもちろん、野外調査の疲れをいやし、研究能率を高める上にも、重要な役割を果たすものと期待される。ニホンザルならぬ、国内における京都大学各地施設の 言わば 南限として



ヘクソカズラやヤマイモなどのつるは彼らの主要食物になっている

も、意義深いものと言えよう。

なお、この屋久島観察ステーションの建設に当たっては、敷地の確保や建築上の諸手続き等に、上屋久町をはじめとする地元関係者に多大の御協力を頂いた。

(霊長類研究所)

日 誌

(1987年 5月1日～5月31日)

5月15日 安全委員会
19日 大学院審議会
20日 国際交流委員会
25日 学位授与式

26日 評議会
29日 総長、高等教育・研究機関の実状、特に入学選抜に関する現状調査のため、アメリカ合衆国を訪問(6月5日まで)

